

信越化学工業株式会社

2021年3月期第1四半期 決算説明電話会議要旨

日時	2020年7月28日(火) 16:00 - 17:00
開催場所	信越化学工業(株)
会社側出席者	・代表取締役 社長 齊藤 恭彦 ・専務取締役 半導体事業担当 轟 正彦 ・常務取締役 広報担当 秋本 俊哉 ・取締役 経理部長 笠原 俊幸 ・広報部長 足立 幸仁
参考資料	2021年3月期第1四半期 決算短信 *従来、決算短信と説明資料を作成していましたが、統合して決算短信一本にしています。

* このメモは電話会議でお話しした内容をまとめたものです。

【決算概要説明 (社長 齊藤恭彦)】

- 2021年3月期第1四半期
連結売上高：3,593億円(前年同期比 7%減、前四半期比 3%減)、
営業利益：909億円(前年同期比 15%減、前四半期比 4%増)、
経常利益：952億円(前年同期比 13%減、前四半期比 8%増)、
純利益：693億円(前年同期比 18%減、前四半期比 3%増)
- 対前年同期比で見た減益の7割が塩ビ・化成品部門とシリコン部門で起きており、その主因は市況の軟化。4月から顕著になった経済情勢の悪化にもかかわらず、前四半期からは増益を果たした。4-6月の当該期は、各事業部門が直面したさまざまな課題と問題を機敏に解決、克服し、報告の結果を出した。

[今後の見通しについて]

- いわゆる都市封鎖の解除や経済活動の再開がなされ、確かに先月から経済は立ち直りを示している。しかしながら、米国の状況を例に挙げるまでもなく、新型コロナウイルス感染終息の兆しはなく、その影響は現時点では見通せない。実際、当社顧客の大多数が通年は見通せないとしている。
- このような状況を踏まえ、第2四半期累計6カ月の業績予想を開示した。
第2四半期3か月間(7-9月期)の予想は、
連結売上高3,457億円(前四半期比 4%減)、営業利益911億円(前四半期と同じ)、
経常利益968億円(前四半期比 2%増)、当期純利益697億円(前四半期比 1%増)
- 中間配当予想は1株当たり110円。
- 通期予想は、開示が可能となった時点で発表する。
- 今の状況を新常态として、また、好機と捉えて収益向上に取り組んでいく。従業員の健

康と安全を維持し、販売の確保と高稼働の維持に引き続き努めて業績の伸長を図る。

【セグメントごとの足元の状況について】

- 塩ビ・化成品は北米を初め主要市場で7月の値上げが通った。8月において、輸出市場で値上げは既に通している。北米でも、第3次値上げに取り組む予定。8月の生産は完売している。
- シリコーンは、品種の多様性を生かして需要の落ちた分野、落ちた地域の販売を他で埋め切るべく取り組んでいる。進行中の投資の中身を機敏に調整して、需要を取り込んでいく。
- 機能性化学品事業のセルロースは、パンデミックの中で製薬の需要は確実に増えているので、この分野を伸ばしていく。
- 半導体シリコンは、300mmと先端品の2つに集中。
- 電子・機能材料事業のマグネットは、第1四半期4-6月で苦い経験をしたが、操業が止まらないようにしてフル操業を継続していく。露光関係はとにかく先端に注力する。

【各セグメント概要説明（広報部長 足立幸仁）】

➤ 塩ビ・化成品事業

【売上高 1,102 億円（前年同期比 10%減）、営業利益 190 億円（同 25%減）】

- 米国は塩ビ、苛性ソーダともに高水準の出荷を維持したが、市況の影響を受けた。
- 欧州は販売数量の維持に努めたものの、市況の影響を受けた。
- 日本は市況の影響に加え、定期修理により出荷数量が減少。

➤ シリコーン事業

【売上高 512 億円（前年同期比 9%減）、営業利益 105 億円（同 34%減）】

- 汎用製品の価格下落や、車向けや化粧品向けの需要鈍化の影響を受けた。

➤ 機能性化学品事業

【売上高 274 億円（前年同期比 5%減）、営業利益 50 億円（同 33%減）】

- セルロースは、医薬用製品や塗料製品は底堅く推移したが、建材用途が振るわず。
- フェロモンやポパールは低調な出荷。

➤ 半導体シリコン事業

【売上高 949 億円（前年同期比 4%減）、営業利益 385 億円（同 2%減）】

- 半導体デバイス市場での調整局面が続いたが、販売価格と出荷水準の維持に努めた。

➤ 電子・機能材料事業

【売上高 525 億円（前年同期比 4%減）、営業利益 149 億円（同 10%減）】

- 希土類磁石は、新型コロナウイルスを原因とするロックダウンにより一時海外工場の

稼働が影響を受けたが、現在はフル操業で挽回中。

- フォトレジストは、ArF レジスト、EUV レジストを中心に総じて好調。
- マスクブランクスも先端品の伸びにより、堅調に推移。
- 光ファイバー用プリフォームは、市況悪化の影響を受け、厳しい状況となったが、大型パネル用フォトマスク基板は堅調に推移。

➤ 加工・商事・技術サービス事業

【売上高 228 億円〈前年同期比 6%減〉、営業利益 26 億円〈同 25%減〉】

- 信越ポリマー社は、半導体ウエハー関連容器の出荷は堅調だったが、自動車用の入力デバイスが市況悪化の影響を受けた。

[決算の補足説明]

- 業績予想の為替レートの前提は、7月以降はUSドルが107円、ユーロが120円。
- 経常利益の為替感応度は、1円の変動でUSドルは年間26億円、ユーロは年間2億円。
- 今期の設備投資は2,400億円、減価償却費は1,400億円の見込み。

【質疑応答】

〈塩ビ・化成品〉

Q	北米の塩ビの需要、価格動向について
A	<p>・ 7月の北米における値上げの背景は2つあります。</p> <p>一つ目は、北米以外の地域での需要の盛り返しで先に商売を押しやえに行き、国内の値上げに取り組んだこと。アメリカは、4月、5月と大変厳しい状況でしたが、6月からロックダウンの解除の中で、抑えつけられていた需要が戻ってきました。6月、7月とリバウンドが強く、値上げの後押しになりました。それが続くと見ており、8月も値上げを打ち出しました。</p> <p>二つ目の理由は、旅行に行かず、外食にもいかない分、お金を家まわりに使っていることです。家の手直し需要でホームセンターの売上が伸びると、建設資材の1つである塩ビ製品も売れます。一例を挙げれば、塩ビで作られるフェンスなどが大変好調です。通常8月は、夏だれを起こす月ですが、順調に需要が伸びています。</p>
Q	北米外の市場について
A	<p>インド、ブラジルは大きな市場で、ここが元気な方がもちろん良いですが、ほかの地域の需要がしっかりしており、そこで売りさばけています。北米やヨーロッパなどの先進国の需要が比較的しっかりしているため、ブラジル、インドで経済</p>

	の再開が遅れぎみであっても、値段が崩れていません。実際に8月の輸出も値上げをして完売しており、需要は底堅いと見ています。
Q	苛性ソーダの市況について
A	塩ビの生産が増えている分、塩素需要の高まりで併産品である苛性ソーダも多く市場に出てきます。そのため、需給が緩む現象が時々起こります。
Q	塩ビの需要見通しについて
A	6月に反転し、7月はさらに良くなっています。北米のお客様からも注文をしっかりといただいており、8月もほぼ同じ水準でいけそうです。秋以降については、通常、秋需が出て冬枯れするというパターンですが、単純に、本来の春需（4、5月）がずれているのであればそのまま行けると思います。お客様の中には慎重な向きと、年末まで行けるという強気の方々と二様です。今後のアメリカ経済は、感染増加がどうなるのか、失業手当の継続がどうなるのか決まっていないので、見えてきません。その中で、お客様が今のところは順調に工場を稼働しているので、それにきちんと対応していきます。経済に身を委ねるのではなく、色々な策を打って、今年何とか良い数字でまとめられるよう取り組んでいる最中です。
Q	シンテックの2Q（4-6月）の損益について
A	<ul style="list-style-type: none"> ・4月、5月は散々な状況でしたが、6月である程度盛り返しました。この状況下でもシンテックはフル操業でしたので、塩ビ業界の中ではそこそこの数字になると思います。ただ、1-3月と比べると、4-6月は減益になっています。 ・北米の塩ビ価格は4-5月合計で8¢下がり、6月に3¢戻しました。ただ、それよりも北米外の市場の値下げ幅が厳しい状況でした。7-8月と、市場が締まっている間に値段の回復を行い、フル操業を続けます。
Q	エチレンプラントの稼働と償却費について
A	<ul style="list-style-type: none"> ・エチレン工場の本格的な減価償却は4月以降になります。この1Qは、シンテックの1-3月期が反映されますので、償却費はそれほど増えていません。

〈シリコーン〉

Q	7-9月以降の販売について
A	当社には、特定のお客様のために作った、付加価値の高いシリコーン製品が多くあります。4-6月は経済活動が低下した影響を受け、お客様の製品が振るわず、当社製品の需要が減りました。7-9月以降については、例えば化粧品については

お客様が色々と工夫をされているので、それに対応して当社製品を売っていきます。また、車載についても、EVの需要が早めに戻ってきていますので、その分野で使われるシリコン製品に注力していきます。このような仕事の組み合わせで、7-9月から盛り返すべく取り組んでいきます。

〈半導体シリコン〉

Q	1Q（4-6月）の市場の状況と2Q（7-9月）の見通しについて
A	<ul style="list-style-type: none"> ・1Q（4-6月）の市場状況は、全体では前年同期比（YoY）、前四半期比（QoQ）ともに出荷は増加しました。 <p><口径別の市場状況></p> <p>[300mm] YoY、QoQともに増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・需要の6割強を占めるメモリー用途では、PCやサーバー向けが好調でした。中には在庫積上げの出荷分も含まれていたと推測されます。7-9月についても、メモリー用途は大きな変化なく推移するとみています。 ・残りのロジック他用途では、先端デバイス向けがこの先も好調を維持しますが、汎用向けはお客様や品種によってバラつきが生じています。7-9月の市場も4-6月に近い出荷量で推移するものとみています。 ・10-12月は、今後のデバイス需要の軟化を懸念されているメモリーメーカーもありますが、ウエハー需要への影響はまだ見えていません。 <p>[200mm] YoY 微増、QoQ 増加</p> <p>[150mm以下] YoY 微増、QoQ 増加</p>
Q	4Q（1-3月）から1Q（4-6月）の当社の収支変動要因について
A	<ul style="list-style-type: none"> ・収支改善の要因は、数量が伸びたこと、コストダウンが進んだこと、償却費が減少したことが挙げられます。
Q	2Q（7-9月）以降の見通しについて
A	<ul style="list-style-type: none"> ・数量については、300mmは足元堅調に推移しており、7-9月も大きな落ち込みはないとみていますが、10月以降は最終製品需要次第です。200mmは、車載向け、スマートフォン向け、産業機器向けなどの需要が振るわなかったにも拘わらず、ウエハーの需要は好調であったので、その反動（在庫調整）が懸念されます。 ・価格については、長期契約に基づいて推移しており、この先も大きな変動はないと見ています。

Q	新型コロナ問題、米中貿易摩擦、中国国産化などの市場リスクについて
A	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナや米中問題などで、サプライチェーンが分断されるのか、今後の経済にどのように影響していくのか注視しています。ウエハーのユーザーはアジア地域に多く、これまでアジア中心にサプライチェーンを構築してきました。アメリカにも 300mmの工場は有していますし、日本からも輸出できますので、サプライチェーンについては、今後の動向を見ながら検討していきます。 ・資材調達については、複数購買を現在も基本としておりますので、限られた国、限られた地域、特定のサプライヤーのみということにならないよう、運営していきます。 ・シリコンウエハーの中国内国産化については、300mmモニターウエハーの量産が開始されたようですが、プライムウエハーの生産がいつ頃になるのか、注目しています。
Q	お客様の在庫状況について
A	<ul style="list-style-type: none"> ・3月以降お客様が在庫の積み増しをされたということはありません。 ・300mmの在庫月数は、2年ぐらい前に比べれば高水準かもしれませんが、この1年では大きな変動はないと見ています。 ・今後については、最終製品需要により、300mmのメモリー、ロジックの需要が減退した場合は在庫調整も十分あり得ますが、顧客は安定在庫を維持すると思われる。 ・メモリー、ロジック別では特に大きな違いはなく、むしろお客様の購買方針、拠点などによって少し考え方が違ってくると考えられます。

〈電子・機能材料〉

Q	フォトレジストの状況について
A	<ul style="list-style-type: none"> ・フォトレジストは、微細化に伴って露光の層（マスクの数）が増えていくので、ウエハーの枚数の伸びと必ずしも一致するものではありません。当社は先端を走っているのでその分野でのシェアを伸ばしています。 ・今後は EUV への投入も増えていきますので、さらに伸びていくと見ています。
Q	マスクブランクスの状況について
A	<ul style="list-style-type: none"> ・マスクブランクスは能力増強をしたばかりで、先端品の需要に対応して伸ばしていきます。EUV については、お客様からの要請が強いので、開発の作業を進めている状況です。

〈全 社〉

Q	設備投資計画の変更について
A	<ul style="list-style-type: none"> ・シンテックの新增設は、新型コロナの感染拡大で作業員が集まらない事態が一時ありましたが、今はそれを克服して計画どおり進めています。 ・シリコーンは投資の内容が多岐にわたっています。車載用が振るわない、化粧品向けが売れないなど、需要の変化が起きていますので、投資の中身を入れ替えて対応しています。 ・光ファイバー用プリフォームの投資は合併先との作業ですが、一部遅らせました。
Q	2Q（7-9月）の主たる製品の見通しについて
A	<ul style="list-style-type: none"> ・シリコーンは、車載や化粧品などの振るわない分野を他で盛り返して挽回します。 ・セルロースは、製剤用の製品が伸びているので、さらに伸ばしていきます。 ・半導体シリコンは、1Qと同様安定的に推移すると見えています。 ・マグネットは、フィリピンやマレーシアの経済が一旦止まった影響で、加工の工場が稼働できなかった期間があります。今はフル操業をしており、この2Qで挽回します。 ・レジストやブランクスといった露光関係は1Qの伸びをさらに伸ばしていきます。
Q	建設仮勘定について
A	<ul style="list-style-type: none"> ・建設仮勘定の残高は前期末比 1,500 億円弱減っていますが、一番の減少要因は塩ビ・化成品事業のエチレン工場を本勘定に繰り入れたためです。 ・塩ビ・化成品事業以外では、各セグメント数十億円程度の増加ないし減少です。
Q	コロナ禍で直面した課題、及び対応策について
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとつの事例は、マグネットは加工を行う海外工場で生産を一時止めざるを得ない問題が起きました。現在は克服しており、今後操業停止にならないように体制を作っていきます。仮に部分的に操業停止になっても、お客様に迷惑が生じないよう、サプライチェーンの見直し等を行って、今後に備えていきます。 ・シリコーンなどにおいては需要に変容が起きていますが、商売のチャンスになるので、きちんと対応していきます。こういうところでの対応の早さが差を生むこととなります。諸策を一つ一つこなしていき、結果に繋げていきます。